

日本地衣学会

No.29

ニュースレター

Newsletter from the Japanese Society for Lichenology

目次 雑報.....	99
日本の地衣類に関する文献の入手について / 吉村 庸.....	99
文献入手 私の場合 / 原田 浩.....	101
「第5回青空地衣教室(北海道愛山溪)の記録」:訂正 / 原 光二郎.....	102

雑報 Miscellanea

日本の地衣類に関する文献の入手について How to obtain classic works about Japanese lichens

Recently Mr. Yoshiatsu Ikoma reprinted a few copies of several classic literatuers about Japanese lichens including A. Miyoshi: "raiken tsuusetsu (Introduction to lichens)" in Botanical Magazine Tokyo, 1888-1900) and some classic works about Japanese lichens. These reprint editions will be exhibited at the next annual meeting of the Japanese Society for Lichenology. Anyone interested in these reprints, please ask to the secretary of the society. They will serve on a first-come-first-served basis.

(Yoshimura I.: Hattori Bot. Lab., Kochi Branch)

初心者が日本の地衣類を研究しようとするときに、いくつかの障害がある。その一つは適当な参考書の入手が困難なことである。日本でもこれまでに先人の努力で地衣研究に必要な図書の出版がされているが、諸般の事情で発行部数が少なく、今日では絶版となり、入手が極め

て困難になっているものが多い。

地衣類関係の図書の出版が困難な理由は商業ベースに乗るだけの販売部数の確保の見込みが立たないからであり、たとえば安田 篤(著)『日本産地衣類図説』(1925)にしても400部の限定出版であり、財団法人斉藤報恩会からの出資によるものである。朝比奈泰彦(著)『日本の地衣 1ハナゴケ属』(広川書店1950刊)も500部程度の限定出版であった。この本は書店からの出版ではあるが、日本薬局方解説など薬学関係の書物を多く発行している同書店の犠牲的な出版であったと想像される。そのためであろう、『日本の地衣 2. ウメノキゴケ属』は当初は広川書店の発行予定にあったが、商業ベースをはなれ、『3. サルオガセ属』とともに、資源科学研究所からの出版となっている。

私はこの『日本の地衣 1ハナゴケ属』を朝比奈先生に頂くことができた。大先生より著書を頂いたという光栄と共に、高校生の身で定価750円は大金でありとても

すぐには購入できる代物ではなかったので大変うれしかった。このような限定本はその時に求めておかないと後日入手するのは困難である。この日本の地衣ハナゴケ属は今日では希少本で古本屋でもめったに出現しない。実はこの本を私はもう一冊所持している。随分とあとになってであるが、服部植物研究所の水谷正己博士が私の学位授与のお祝いに進呈して下さったからである。水谷博士はこの貴重本を昭和 25 年当時に書店で求められたのであった。私は小躍りして拝受した。日本の地衣ハナゴケ属は今では入手困難であるが、1971 年に資源科学研究所より朝比奈泰彦『日本産クラドニア図集』27pl. が出版されており、現在でも地衣類研究会を通じて求めることができる。地衣類研究会は現在のような形の研究会が発足する前に朝比奈先生の著作の配布を主な目的として設立されており、その流れが現在でも受け継がれているようである。

それより先、河出書房より朝比奈泰彦・柴田承二(著)『地衣成分の化学』(昭和 24 年)を書店で見つけた。入手したいが、中学生の身では定価 480 円の金の工面がつかない。焼き芋販売というアルバイトで資金を得てやっとのことで購入した。

日本で最初の地衣類の概説は三好 学『ライケン(Lichenes)通説』であり、明治 21 年 11 月の植物学雑誌第 2 巻 21 号より同雑誌 40 号(明治 23 年)に 20 回にわたり連載されている。この中にすでにさまざまな用語が出現しており、採集法なども記述されている。

私が地衣類の研究を始めたころには現在のような複写機はなく、文献の複写には研究者自身により、カメラで複写していた。私は黒川 道博士がご自身で写真コピーされたネガを借り受けて、暗室にこもり、焼付けをした。

生駒義篤氏は日本地衣学会の名誉会員に推挙されたことを記念され、このライケン通説を復刻され、出席会員に無償で配布された。

私が高校生のころに高知女子大学の延原 肇先生に

お借りして筆写した本に佐藤正己(著)『地衣類実験法』建文館(昭和 12 年発行)がある。カメラも高価でとても中学生や高校生が自由に使用できる状態ではなかったのもっぱら筆写である。この本は高知県立図書館にあった朝比奈泰彦(著)『地衣類(岩波生物学講座)』(昭和 5 年)と共に、地衣類を勉強するのに役に立った。

朝比奈泰彦(監修)『日本隠花植物図鑑』三省堂(昭和 14 年)は日本の隠花植物図鑑として初めてのもので、大変参考になるものであったが、入手はきわめて困難であった。故佐藤正己先生にお聞きしたところでは、8 名の執筆分担者の原稿がなかなかそろわず出版が遅れ、戦時下で予定の用紙の配給がなくなり、予定部数をかなり少なくして出版された。このようなわけで、私は日本隠花植物図鑑を百田君という友人に借りて見ていた。古本屋の古書目録では相当に高価であり、入手したのはずいぶん後になってからである。

地衣類の採集と標本製作については詳細な手引書がなかった。また、高宮(山本)篤執筆による地衣類の採集と標本製作法に関する記述が、本田正次・久内清孝『植物採集と標本製作』総合科学出版協会(昭和 6 年)のなかにあると、朝比奈先生が藓苔地衣雑報(10 号、1957 年)に記述されているが現物をみたことがなかった。最近になって、この複写を読むことができた。実に微に入り細を穿ち相当詳しい記述がある。皆さんにぜひ一読をお勧めしたい。因みに朝比奈先生は藓苔地衣雑報(1957)で地衣の採集家は当然この本を読み、地衣類を採取して、立派な標本を作製した上で鑑定依頼をすべきであるのにそれが守られていないとお小言を述べられている。

日本の地衣類を勉強するのに、植物研究雑誌に連載された朝比奈泰彦先生、佐藤正己先生らの地衣類の論文は大変参考になるものである。私は、前述の延原肇先生(当時高知女子大のち千葉の習志野高校)の所蔵されていたのを少しずつ筆写した。後になって朝比奈先生のお世話

で研究雑誌のバックナンバーを求めることが出来た。研究雑誌登載の論文はいずれも重要であるが、特に朝比奈泰彦『地衣成分の顕微化学的証明法』（1936-1940）は重要であり、復刻版が地衣類研究会で発行していたので今でも求めることができるだろう。

大学の学生時代に井上書店より Pflanzenfamilien が売りに出された。分売本もあり、第 8 巻地衣の部を求めることが出来た。後半とはいえ、昭和 20 年代に価 5000 円は痛かった。奨学金は特別増額で 3000 円。半期の授業料は 3000 円の時代である。しかし、この本は私にとって世界における地衣類の多様性を認識させるのに大変役に立った。

日本産地衣類を本格的に調べようとすると、明治初期からの外国の地衣学者による著作に当たらねばならなくなる。この文献の入手がかなり困難である。私はこれらを昭和 30 年代に黒川 道 博士の厚意で先に同博士が写真コピーを作成したさいのネガを借用して片端から焼きつけ作業で複製をした。Nylander: Lichenes Japoniae (1890), Müller: Lichenes yatabeani (1892). Wainio: Lichenes ab A. Yasuda in japonia collecti (1918-1921); Zahlbruckner: Additamenta ad lichenographiam japoniae (1927). この他に後になってさらに複製（コピー）を入手したものには、Müller: Lichenes Japonici (1879), Müller: Lichenes Miyoshiani (1891), Räsänen: Lichenes ab A. Yasuda et aliis in Japania collecti (1940)がある。

昔に比べて献の入手は現在では容易になったとはいえ、大変わらずらしいものである。最近 生駒義篤氏は多くの地衣学関係の文献を復刻され、後学のために提供されていることをお知らせしておきたい。地衣学会の年大会の折には皆様に現物を展示したい。これらの文献の入手を希望される方は学会庶務幹事にまで申し込まれるとよい。

（吉村 庸：服部植物研究所高知分室）

文献入手 私の場合

私が地衣類をはじめた頃は、吉村先生のご苦労された頃とは様子は異なる。1981年、当時、高知大学の3回生になったばかりの私は、出口博則先生（その時はまだ指導教官ではなかったかも）の計らいで、地衣類の勉強をはじめることができた。近くには吉村先生という地衣類の大先生がおいでで、しかも弟子が居ないということなどが決め手となった(?)。

将来は分類の研究をするにしても、その第1歩としては剣山のフロラ（特に大型地衣）を調べることになった。これを調べるための文献は、吉村庸著、保育社刊「原色日本地衣植物図鑑」（1974）でほぼ事足りた。しかし同時に、日本の地衣類に関する文献を集めることに予断はなかった。朝比奈泰彦先生の論文はほとんど植物研究雑誌に掲載されているので、生物の図書にあるその雑誌を片端からチェックしてコピーしていった。（これには出口先生に大変お世話になった）。同じ雑誌に掲載された佐藤正己さんの論文もコピーで入手できた。吉村先生からはご本人の抜刷を戴いた。他の方々の論文を当時どのように入手したかは、残念ながらよく覚えていない。もしかしたら広島大学大学院に行ってからのことだったかもしれない。

高知に居る頃には、ちょうどコピー機が普及していった頃だった。そして広島に移ってしばらくして、10円コピーが一般化していった。随分お世話になった。広島大学の植物の図書室には、かなり文献が充実していて、必要そうなものは片端からコピーしていった。恐らく1万枚では足りない枚数だったと思う。学部の際に入手した書籍には Ahmadjian V. & Hale M.E. (eds.), 1973, The Lichens; Brown D.H., Hawksworth D.L. & Bailey R.H. (eds.), 1976, Lichenology: Progress and Problems があつた。学部生にとって、地衣学入門のテキストとしては手ごろであった。広島では Henssen A. & Jahns H.M. (1974), Lichenes. Eine Einführung in die Flechtenkunde をよく読んだ。子器などの内部形態と発生について詳しく、一時期のめり込んでしまった。こういった文献は、全て吉村先生に推薦していただいたものだった。

修士(1983.4-1985.3)では西中国山地冠山の地衣類相を調べることになり、大型地衣類だけではなく痲状地衣も

扱うことになった。そこで、痂状地衣の同定には、J. Poelt (1969), Bestimmungsschlüssel Europäischer Flechten とその補遺(Ergänzungsheft)の I, II (Poelt J. & Vězda A. 1977, 1981) は必須アイテムだった。

さて、その頃からいよいよ分類の研究らしきことをはじめていく上で、多くの書籍を購入し、論文を集めるようになっていった。例えば、古い時代の学名と文献が整理されていた Zahlbruckner A. (1921-1940), Catalogus Lichenum Universalis (全 10 巻) は、当時の円ドルレ-

トがまだ 200 円より悪かったか、計 20 万円ほどの大きな買い物だった。本の買い方は出口先生からも聞いていたが、ドイツの Otto Koeltz での注文が専らだった。また、図書館を通じての文献複写依頼では、広島にはない古い学術雑誌に掲載された論文のコピー(1 枚 45 円)に随分とお世話になった。オランダの IDC 社からも多量のマイクロフィッシュを購入し、必要な古い論文を集めていった。海外の研究者には「別刷を欲しい」との手紙を出し、多くの方から論文を戴いた。(原田 浩: 千葉県立中央博物館)

「第 5 回青空地衣教室(北海道愛山溪)の記録」: 訂正

先日の記事のなかで、観察した地衣類の紹介に、誤りがあることが判明いたしました。お詫びとともに次のとおり訂正をさせていただきます。

(3 ページ)

< 誤 > ある大きな岩では、カムリゴケとツブキゴケが互いに領地を拡げるため、短い擬子柄をいっぱい立ててせめぎ合っていた。このツブキゴケは、先に進むほど擬子柄が長くなっているように感じたが、気のせいだっただろうか。

< 正 > ある大きな岩では、カムリゴケ (Pilophorus clavatus) とヒメカムリゴケ (Pilophorus curtulus) が互いに領地を拡げるため、短い擬子柄をいっぱい立ててせめぎ合っていた。このヒメカムリゴケは、先に進むほど擬子柄が長くなっているように感じたが、気のせいだっただろうか。

せめぎ合いの写真も撮りましたが、残念ながら、なかなか紹介できるものになっておりません。最後になりますが、今回、吉村会長より訂正のご指摘を頂きました。この場を借りて、お礼申し上げます。

(原光二郎: 秋田県立大学生物資源科学部)

Lichenology 日本地衣学会ニュースレター とも、投稿先は:

原田 浩: 〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2
千葉県立中央博物館. Fax 043-266-2481.
E-mail: h.hrd3@mc.pref.chiba.jp

(原田浩: 編集委員長)

複写される方へ

本誌に掲載された著作物を複写したい方は、許諾を受けてください。詳細は本誌13号46ページに。

Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication,

you or your organization must obtain permission. For details, see no. 13, p. 46 of this publication.

日本地衣学会ニュースレター 29号

発行日: 2003年12月30日

編集: 原田浩・岡本達哉・木下靖浩・棚橋孝雄

発行者・発行所: 日本地衣学会

〒010-0195 秋田市下新城中野

秋田県立大学生物資源科学部生物生産科学科内
